

大学間連携災害ボランティアネットワーク主催シンポジウム
「東日本大震災と学生ボランティアの役割—大学間連携による取り組みとその課題—」開催 レポート①

主催：大学間連携災害ボランティアネットワーク

（青山学院大学、桜美林大学、関西学院大学、熊本学園大学、神戸学院大学、西南学院大学、中央大学、中部学院大学、名古屋学院大学、明治学院大学、山形大学、立命館大学、麗澤大学、東北学院大学）

協力：河北新報社、仙台市社会福祉協議会



【開会 — 基調講演】

2011年12月16日(金)12:00から、東北学院大学土樋キャンパスにおいて、大学間連携災害ボランティアネットワーク主催シンポジウム「東日本大震災と学生ボランティアの役割—大学間連携による取り組みとその課題—」が開催されました。

12:00からは、参加大学によるポスターセッション・パネル展が8号館3階、第1・2会議室でスタート。続いて13:30、8号館、5階の押川記念ホールで2日間にわたるシンポジウムがスタートしました。



星宮望学長の挨拶に続き、佐々木俊三・本学災害ボランティアステーション所長の挨拶のあと、阪神大震災から震災ボランティアなどを研究テーマとして取り組んできた、似田貝香門東京大学名誉教授の基調講演が行われました。

約90分の基調講演中に徐々に客席の参加者の数が増え、基調講演終了時にはほぼ満席となる盛況でした。災害ボランティアの研究者としての立場からの提言と、被災地の人々との温度差にも配慮しながら、震災ボランティアのあり方、社会的機能としてのNPOやその歴史などを紹介していただきました。



【セッション 1】

セッション 1 では、震災ボランティアへの取り組みとその課題(1)として、参加大学の先生からの各校のボランティア活動を総括する報告と課題の提供が行われました。

関西学院大学の杉浦氏、青山学院大学の塚本先生、宮城学院大学の木口先生、明治学院大学の浅川先生、麗澤大学の成相先生の報告が行われました。



関西学院大学の杉浦氏



青山学院大学の塚本先生



明治学院大学の浅川先生

